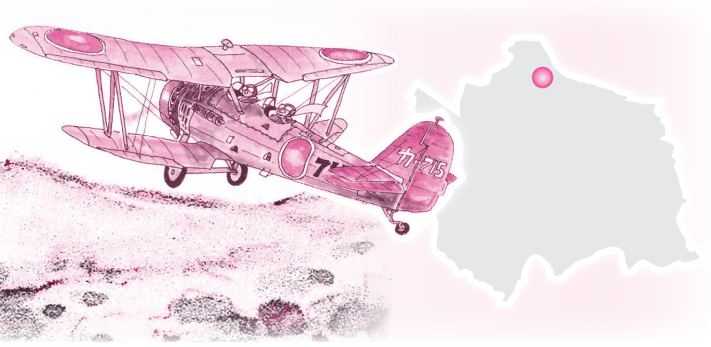
予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関する資料や写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。また、記念館建設にご理解・ご支援いただける人からの寄付金を募集しています。詳細は下記に問い合わせください。

うっすらと降り積もる雪には、ぽってりとした花をつける椿（ツバキ）の木が似合うと思う今日このごろ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

椿が庭木として好まれるようになったのは、茶の湯が流行した安土桃山時代あたりからだそうですが、江戸時代には庭づくりの流行とともに種類も増え、諸外国にも輸出されて椿ブームを巻き起こしました。そのころ作曲されたヴェルディのオペラ「椿姫」にも、主人公が持つ重要な小道具として登場します。椿は花の容姿もさることながら、常緑で、花の少ない冬に咲き、日陰でも育つ強さが洋の東西を問わず好まれたのでしょう。

今月は、寒さに負けず頑張る予科練生の写真を紹介します。

●年中行事「寒稽古（かんげいこ）」

しんしんと冷たい空気が身に染みる1月の約2週間、予科練生（海軍飛行予科練習生・旧海軍の搭乗員養成課程で学んだ少年たち）には「寒稽古」という行事がまっています。これは寒さに耐えて体を鍛え、強い精神力を養うことを目的としています。寒稽古の最中は普段よりも1時間早い5時起床、あたりはまだ真っ暗です。予科練生は5分前には完全に目を覚まし、起床ラッパとともに一斉に飛び起きて猛烈な勢いで寝床であるハンモックをたたんで着替え、洗面をすませます。そして土空（土浦海軍航空隊：現在の陸上自衛隊武器学校一帯）ではそのまま寒稽古に突入します。内容は武道、体操、球技などさまざまですが、特に厳しかったのが短艇（カッター）でした。短艇とは14人乗りのボートのことで、予科練生はこれを霞ヶ浦に浮かべて訓練をしました。ただでさえ寒い中、素手で櫂（かい）をこぐために、直接水しぶきが手にかかり、筑波おろしの寒風にさらされて凍傷になることが多かったそうです。朝食は寒稽古の後でしたが、冷え切った体に温かいご飯はどれだけおいしかったことでしょう。

「――食卓番が湯気の立つ重湯を運んで来る。重湯の入ったコバルト色の食器を両手で包むようにして指を暖めながら、ゆっくりとすする。この味は、あの寒さの中で体操をした者でないと味わえないだろう……と思いながら。」（『豫科練外史(1)』倉町秋次著教育図書研究会1988年）

▲銃剣術（上）と短艇（下）の寒稽古（甲第5期予科練生菊池克久さんのアルバムより）

鎖国下の日本において鳴滝塾を開き、西洋医学を広めたフランツ・フォン・シーボルト（1796–1866）は、日本の植物についても熱心に研究しました。彼が日本から持ち帰った椿は、現在もオランダのライデン大学植物園で大切に育てられています。寒さの中、寒稽古に励む予科練生たちを写したこれらの写真も、何百年後の人たちが同じように見ることができるよう、大切につたえていきたいと思います。

予科練平和記念館ニュース

平成19年12月21日に予科練平和記念館整備推進応援隊の会議が開催されました。応援隊は、予科練平和記念館のPR活動を行うボランティア有志の集まりです。町議会議員・会社員・主婦・元予科練生――など、さまざまな人たちが活動されています。町の記念館づくりに皆さんも参加してみませんか。応募用紙は役場2階予科練平和記念館整備推進室に備え付けのほか、町ホームページ内予科練平和記念館整備推進室のページからダウンロードできます。詳細はお問い合わせください。